

日本鉄鋼協会記事

第52回秋季講演大会 31年度秋季講演大会は予定のとおり、10月11日より13日まで3日間広島市においてつぎのとおり開催された。

I. 講演会：11日、12日の2日間広島大学皆実分校において行われた。11日午前9時15分開会。初めに志村副会長（角野会長海外出張中）より開会の辞がのべられ、ついで太田大会実行委員長の挨拶があつた。終つて講演が5会場においてそれぞれ開始された。今回は講演の申込非常に盛んで2日間にわたり139の多きに上つた。出席者11日310名、12日280名。

II. 特別講演及び映画の会：11日午後5時半より日本金属学会と共催、公開の下に広島市東千田町広島大学教育学部講堂において開催、つぎの講演があり、ついで二つの映画が上映された。聴衆500名を超え盛況であつた。

特殊合金の話 東北大学教授、金属材料研究所長 増本 量氏
 金属と文化 東京大学名誉教授 三 島 徳 七氏
 映画 Packaged Power 日本軽金属株式会社提供
 日本の鉄鋼 社団法人鉄鋼倶楽部提供

III. 懇親会：日本金属学会と共同の下に、12日午後6時より広島市紙屋町「ガスビルグリル」にて開催された。出席者約180名、開宴に先立ち会場において一同記念撮影、太田実行委員長（鉄鋼）の開会の挨拶があり、ついで大原広島県知事、渡辺広島市長より祝辞がのべられ、さらに志村鉄鋼協会副会長、山田金属学会会長の挨拶があつて宴に移つた。その間増本、三島両博士の珍らし芸能の披露があり、その他会員有志の得意の隠し芸も開陳され、場内に軽快バンドの楽音とともに囂々の雰囲気醸し出された。パーティ式の会場のこととて、会員思い思いに座席の間を往来して、久潤を叙し、あるいは懇談を重ね、又は広島銘酒に舌鼓を打つなどそれぞれ欲を尽したのであつた。終りに藤原実行委員長（金属）の発声にて両会の万歳を三唱、非常なる盛會裡に午後8時散会した。

IV. 見学会：12日一両会の見学希望者約500名は6班（9月号掲載）に分れて見学の途につき、それぞれ各工場その他を見学して目的を達することができた。ただ折悪しく第4班は見学予定の光製鉄所が当日よりリストに突入したため見学を遠慮さざるをえなくなつたことは突発のできごとではあるが遺憾であつた。

第9回理事会：日時：31-10-29（日）会場：協会会議室。出席者：志村副会長、入、河上、西郷、（代井上）各理事、西村監事。三島、田中各前会長。伊木、佐藤、横山、各常務委員、橋本事務局長。

報告事項：I. 秋季講演大会の件。II. 臨時編集委員会の件。III. 会員拡大運動に関する件。IV. 学術会議材料試験研究連絡委員会の件。V. 科学技術情報センター設置に関する件。

協議事項：I. 常務委嘱に関する件。常務委員俵隆治君転任により辞職のため山本信公君を常務委員（企画担当）として委嘱のこと。II. 明年度春季大会および秋季大会に関する件—春季大会の期日及び会場は更に金属学会と打合わせの上決定のこと、秋季大会は角野会長帰国の上協議決定のこと。III. 原子力委員会設置に関する件—鉄鋼技術共同研究会内に原子力部会を設置するよう提案すること。IV. 大河内記念会賞受賞候補者推薦の件—通産省製鉄課長と会長連名にてつぎの二件を推薦すること。1. 平炉における大量酸素を使用する製鋼法の確立—西山弥太郎 2. ガスタービン並びにジェットエンジン用翼材の生産技術の確立—住友元夫外。V. 世界冶金会議に関する件—会告をもつて一般会員に通知し、また各支部長に照会して参加希望者の推薦を求めること。VI. 国際熔接学会（I.I.W.）年次大会に関する件—主要関係会社に照会して出席者の推薦を求めること。VII. 9月中入退者その他会員異動の件—承認。VIII. 9月中収支決算の件—承認。

臨時編集委員会：日時：31-10-11（木）会場：広島市元町郵政会館。出席者：現地側—金田義夫君、山本忠次君、数納勳郎君、太田久男君、安藤卓雄君、小柴定雄君、白川竜水君、神野修一君。協会側—河上、長谷川、横山、井上、内山、上野、沢、皆木、安田各編集委員、橋本局長、三宅。

10月11日午後7時より秋季講演大会出席の編集委員と現地（中国四国支部）の有志会員と会合し、会誌編集上に関する要望及び協会の一般事項に対し隔意なき意見の交換を行い、懇談約1時間夕食を共にし談笑裡に散会した。現地会員の要望は次の如きものであつた。（1）圧延関係の記事を多くすること、（2）論文は当用漢字で文章平易なこと、（3）講演大会における講演は今後選択のこと、（4）評議員選出に際し公平な立場より各方面より選考のこと、（5）地方支部の講演を権威付け大会講演同様に取扱うこと。

製鉄技術管理専門調査団の渡米決定：鉄鋼技術共同研究会では、かねて製鉄技術管理専門調査団の米国派遣を準備していたが、この程つぎの通り団員および日程を決定した。出発は明年1月24日、調査期間は6週間の予定：

団長 蜂谷茂雄（八幡製鉄取締役）団員 鍵山正則（八幡製鉄所条鋼部副長）熊沢 淳（富士製鉄本社技術部標準課長）植木 久（日本鋼管本社技術部標準課長）清水政治（千葉製鉄所管理部作業課長兼管理課長）赤羽正輝（小倉製鉄所製造部次長）岡 勇（神戸製鉄所企画部機械技術管理課長補佐）秘書木下亨（通産省重工業局製鉄課管理班長）